

船舶事故調査報告書

平成27年1月8日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 庄 司 邦 昭（部会長）
 委員 小須田 敏
 委員 根 本 美 奈

事故種類	衝突（防波堤）
発生日時	平成26年7月1日（火） 14時32分ごろ
発生場所	香川県高松市高松港 高松港朝日町外防波堤北灯台から真方位220° 130m付近 （概位 北緯34° 21.9′ 東経134° 03.6′）
事故調査の経過	平成26年7月8日、本事故の調査を担当する主管調査官（広島事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	プレジャーボート F-24ヤシマ2号、5トン未満 271-11765香川、香川マリン株式会社 6.58m (Lr) × 2.37m × 1.09m、FRP ガソリン機関、58.80kW、昭和55年9月
乗組員等に関する情報	船長 男性 69歳 二級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和53年11月24日 免許証交付日 平成23年5月13日 （平成28年5月22日まで有効）
死傷者等	重傷 1人（船長）、軽傷 1人（同乗者）
損傷	本船 船首部に亀裂を伴う凹損 防波堤 なし
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者1人を乗せ、釣りを終えて帰航するため、高松港の外防波堤西方沖の釣り場を出発し、船長が操縦区画右舷側に立ち、手動操舵により約12ノットの速力で、外防波堤に沿って北東進した。 船長は、同乗者が操縦区画左舷側で玉網 <small>たまも</small> を使っていけま <small>いけま</small> から魚をすくってクーラーボックスに移す作業を始めたので、その作業を見ていた。 船長は、操縦席に腰を掛け、ふと船尾方向を見て船外機及び水流の状況から本船が右回頭していることに気付き、急いで舵中央としたが、平成26年7月1日14時32分ごろ、本船は、高松港朝日町外防波堤北灯台から真方位220° 130m付近の外防波堤に衝突した。

	<p>船長は、衝突の衝撃で倒れたが、しばらくして意識を取り戻し、甲板上に倒れていた同乗者に声を掛けた後、14時57分ごろ高松市庵治港のマーリーナに連絡して救助を求めた。</p> <p>本船は、外防波堤北東方約2海里の高松市屋島北西方沖まで船長が操船し、その後来援したマーリーナの従業員が操船してマーリーナに戻った。</p> <p>船長及び同乗者は、救急車で病院に搬送された。</p> <p>船長は、多発性肋骨骨折、右膝蓋骨骨折、下顎部裂創及び右外傷性気胸と、同乗者は、頭部外傷、脳震盪、右前頭部挫創、頸椎捻挫、頸髓損傷、外傷性頸肩腕症候群とそれぞれ診断されて入院した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 北、風力 2、視界 良好</p> <p>海象：潮汐 下げ潮の初期</p>
その他の事項	<p>本船の喫水は、船首約0.5m、船尾約0.7mであった。</p> <p>船長は、11時00分ごろ高松市庵治港のマーリーナを出発し、12時00分ごろから外防波堤西方沖で釣りを行っていた。</p> <p>船長は、本船の乗船は初めてであり、船舶の操船も約1年ぶりであったが、本事故発生場所付近での釣りの経験は100回以上あり、周囲の状況をよく知っていた。</p> <p>船長は、操縦区画右舷側に立った体勢で操舵していたときに転舵した記憶はなかった。</p> <p>船長及び同乗者は、救命胴衣を着用していた。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象等の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>なし</p> <p>なし</p> <p>本船は、高松港の外防波堤に沿って北東進中、船長が、同乗者の作業に意識を向けていたことから、右回頭を始めたことに気付かず、外防波堤に向けて航行し、同防波堤に衝突したものと考えられる。</p> <p>船長は、操縦区画右舷側に立った体勢で操舵していたときに転舵した記憶はないが、気付いたときには、船外機が右舵状態であったので、無意識に又は何かの弾みで転舵させた可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、高松港の外防波堤に沿って北東進中、船長が、同乗者の作業に意識を向けていたため、右回頭を始めたことに気付かず、外防波堤に向けて航行し、同防波堤に衝突したことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・航行中は、船位の確認を適切に行いながら操船に当たること。